農林水産省 大臣官房統計部 平成30年9月28日公表

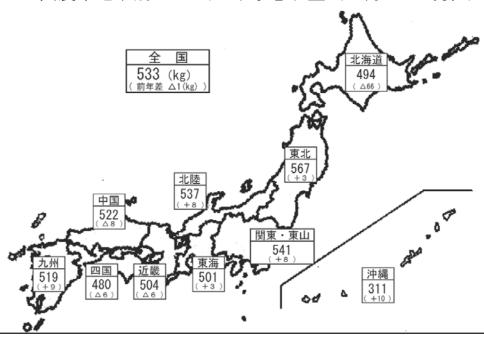
平成30年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

- 主食用作付見込面積は138万6,000ha、10a当たり予想収量は533kgの見込み -

【調査結果の概要】

- 1 <u>平成30年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む。)は159万2,000haで、うち主食</u> 用作付見込面積は138万6,000haが見込まれる。
- 2 <u>9月15日現在における水稲の作柄</u>は、北海道において6月中旬から7月中旬の低温・日照不足の影響により全もみ数が少なくなったものの、その他の地域では、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き平年以上に確保され、登熟もおおむね順調に推移していることから、全国の10a当たり予想収量は533kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に 10 a 当たり予想収量を乗じた<u>予想収穫量(主食用)は</u> 737 万 4,000 t が見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量(9月15日現在)



- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新 規需要米等の作付面積(平成30年9月15日現在)を除いた面積(見込み)である。
- 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70 mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査における作柄概況 (9月 15 日現在) は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。 【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(平成6年法律第113号)に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証の ための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法(昭和22年法律第185号)に基づく農作物共済事業における共済 基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稲の年次別推移(全国)

						参考	
年産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む。)	子実用	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用作付面積	収穫量(主食用)	作況指数
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成10年産	1, 800, 000	1, 793, 000	499	8, 939, 000			98
11	1, 786, 000	1, 780, 000	515	9, 159, 000			101
12	1, 768, 000	1, 763, 000	537	9, 472, 000			104
13	1, 711, 000	1, 700, 000	532	9, 048, 000	•••	•••	103
14	1, 693, 000	1,683,000	527	8,876,000			101
15	1, 670, 000	1,660,000	469	7, 779, 000			90
16	1, 704, 000	1,697,000	514	8,721,000			98
17	1, 709, 000	1, 702, 000	532	9,062,000			101
18	1, 692, 000	1,684,000	507	8, 546, 000			96
19	1, 678, 000	1,669,000	522	8, 705, 000			99
20	1, 637, 000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1, 637, 000	1,621,000	522	8, 466, 000	1,592,000	8, 309, 000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8, 478, 000	1,580,000	8, 239, 000	98
23	1, 632, 000	1, 574, 000	533	8, 397, 000	1,526,000	8, 133, 000	101
24	1, 641, 000	1, 579, 000	540	8, 519, 000	1,524,000	8, 210, 000	102
25	1, 647, 000	1, 597, 000	539	8,603,000	1,522,000	8, 182, 000	102
26	1, 639, 000	1, 573, 000	536	8, 435, 000	1, 474, 000	7,882,000	101
27	1, 623, 000	1, 505, 000	531	7, 986, 000	1, 406, 000	7, 442, 000	100
28	1,611,000	1, 478, 000	544	8, 042, 000	1, 381, 000	7, 496, 000	103
29	1,600,000	1, 465, 000	534	7, 822, 000	1, 370, 000	7, 306, 000	100
30 (見込み)	1, 592, 000		533		1, 386, 000	7, 374, 000	100

資料:農林水産省統計部『作物統計』

- 注:1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。
 - 2 10 a 当たり (予想) 収量及び (予想) 収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 - 3 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積(平成30年9月15日現在)を除いた面積(見込み)である(以下同じ。)。
 - 4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 - 5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。
 - 6 「…」は、未発表であることを示している。

【調査結果】

平成30年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む。)は159万2,000haで、前年 産に比べ 8,000ha の減少が見込まれる。

なお、水稲の作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規 需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は138万6,000 haが見込まれる。

2 9月15日現在における水稲の地域別の10a当たり予想収量は、北海道では、 6月中旬から7月中旬の低温・日照不足の影響により全もみ数が少なくなったこ とから、494kg(前年産に比べ66kg減少)が見込まれる。

その他の地域では、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数 は一部を除き平年以上に確保され、登熟もおおむね順調に推移していることから、 東北は 567kg(前年産に比べ 3 kg増加)、北陸は 537kg(同 8 kg増加)、関東・東 山は 541kg (同 8 kg増加)、東海は 501kg (同 3 kg増加)、近畿は 504kg (同 6 kg 減少)、中国は 522kg(同 8 kg減少)、四国は 480kg(同 6 kg減少)、九州は 519kg (同9kg増加)が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は533kg(前年産に比べ1kg減少)が見 込まれる。

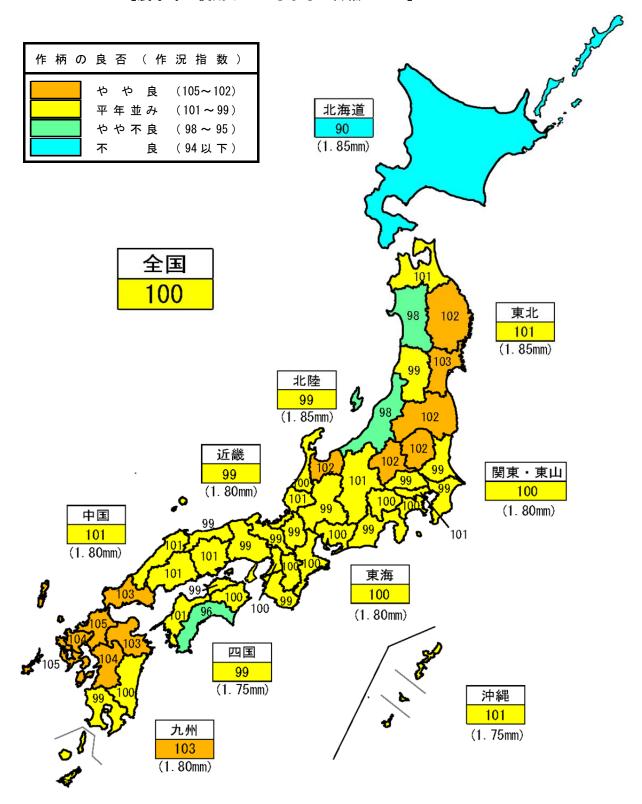
主食用作付見込面積に 10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は 737万4,000 t が見込まれる。

平成30年産水稲の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量 (全国農業地域別)

	作付面積	(青刈り面積	を含む。)	10 a 当たり	の予想収量	参	考
全国農業地域	実数	前年産る	との比較	実数	前年産との比較	主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)
		対 差	対 比	1	対 差	2	$3 = 1 \times 2$
	ha		ha %	kg	kg	ha	t
全 国	1, 592, 000	△ 8,	000 100	533	\triangle 1	1, 386, 000	7, 374, 000
北 海 道	106, 400	Δ	500 100	494	△ 66	98, 900	488, 600
東 北	412, 500		0 100	567	3	345, 500	1, 958, 000
北陸	212, 700		200 100	537	8	184, 800	992, 800
関東・東山	299, 200	Δ 1,	500 100	541	8	259, 300	1, 402, 000
東 海	100, 900	Δ	500 100	501	3	91, 000	456, 200
近 畿	105, 800	Δ	200 100	504	△ 6	99, 500	501, 100
中 国	110, 200	△ 1,	500 99	522	△ 8	101, 100	528, 100
四 国	51, 900	△ 1,	000 98	480	△ 6	49, 000	235, 500
九州	191, 800	△ 2,	700 99	519	9	156, 100	810, 600
沖 縄	716	Δ	11 98	311	10	716	2, 230

注: 1 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。 2 主食用作付見込面積及び予想収穫量(主食用)については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。 3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用)の算出には、第一期稲 の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数 (9月15日現在) 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



- 注:1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 - 2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の 第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の 10a当たり平年収量を用いた。

【統 計 表】

統計表一覧ページ

1 平成30年産水稲の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況(9月15日現在)

2 平成30年産水稲の出穂期及び刈取済面積割合(9月15日現在)

• • • • • 8

利用上の注意

1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳 の計が一致しない場合がある。

	原	数	7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)			3桁 2桁		1 桁	四捨五入しない	
例	四捨五入する前	(原数)	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
ניקו	四捨五入した数値(統計数値)		1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

2 表中に用いた記号は次のとおりである。

「…」:事実不詳又は調査を欠くもの

「△」: 負数又は減少したもの

3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「平成30年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」(農林水産省)による旨を記載してください。

平成30年産水稲の作付面積、10 a 当たり予想収量及び作柄概況 (9月15日現在) 1

			作付面積(青	XI] b		を 含 む。)			7310 🗖 901	
	全 国						10 a 当たり	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	• 都道府师	1	実 数	前	年産と	:の比較	予想収量	10 a 当たり 予想収量	10 a 当たり 平年収量	作 況 指 数
			-	対	差	対 比	1	②	3	4=2/3
全	国	(1)	1, 592, 000	Δ	ha 8, 000	% 100	kg 533	kg 517	kg 519	100
北	海道	(2)	106, 400	\triangle	500	100	494	480	532	9(
青	森	(3)	50, 300	Δ	200	100	598	581	573	10
岩	手	(4)	55, 900 74, 900	\triangle	200	100 100	547 551	535 534	522 520	102 103
宮秋	城田	(5) (6)	90, 900	Δ	100	100	560	541	554	98
Щ	形	(7)	69, 100	Δ	200	100	593	574	580	99
福	島	(8)	71, 200		200	100	562	541	528	102
茨	城	(9)	77, 000	\triangle	200	100	525 553	509 540	515 528	99
析群	木 馬	(10) (11)	69, 300 17, 300	\triangle	100 300	100 98	505	489	479	102 102
埼	玉	(12)	33, 600	Δ	400	99	486	472	476	99
千	葉	(13)	61, 000	Δ	300	100	542	526	530	99
東	京	(14)	133	\triangle	8	94	418	409	404	10
神新	奈 川	(15) (16)	3, 090 121, 500	Δ	20 600	99	496 538	480 514	479 527	100
富	潟 山	(17)	38, 900	Δ	200	99	553	539	527	102
石	川	(18)	25, 800	\triangle	300	99	520	507	506	100
福	井	(19)	26, 400		100	100	529	506	500	10
山	梨	(20)	4, 930	\triangle	50	99	546	532	533	100
長岐	野阜	(21) (22)	32, 700 25, 100	\triangle	200 100	99	624 484	611 475	607 478	10 ⁻
静	日	(23)	17, 200	Δ	100	99	518	508	513	99
愛	知	(24)	29, 200	Δ	200	99	508	499	499	100
Ξ	重	(25)	29, 400	Δ	100	100	499	489	489	100
滋	賀	(26)	32, 900		0	100	512	501	506	99
京大	都 阪	(27) (28)	14, 700 5, 010	\triangle	200 150	99 97	505 497	494 481	501 480	99
兵	庫	(29)	38, 000	\triangle	300	101	497	485	490	99
奈	良	(30)	8, 660	\triangle	70	99	514	499	500	100
和	歌山	(31)	6, 430	Δ	130	98	493	481	484	99
鳥	取	(32)	13, 900	Δ	200	99	512	501	504	99
島岡	根山	(33)	19, 000 31, 900	\triangle	200 300	99	519 528	508 517	502 514	10 ⁻
広	島	(35)	24, 400	\triangle	400	98	526	517	513	10
山	口	(36)	21, 000	Δ	500	98	519	508	492	103
徳	島	(37)	12, 200	Δ	300	98	473	468	469	100
	見期栽培	(38)	4, 830	\triangle	130	97	466	463	459	10
	手通栽培	(39)	7, 340 12, 800	\triangle	190 400	97 97	479 494	473 488	475 491	100
香愛	川媛	(40) (41)	14, 400	\triangle	100	99	506	497	493	10
高	知	(42)	12, 600	Δ	200	98	442	438	454	9(
트	1期栽培	(43)	7, 310	Δ	60	99	465	462	475	9.
	普通栽培	(44)	5, 340	Δ	70	99	413	408	425	9(
福佐	岡畑	(45) (46)	38, 900 26, 300	\triangle	300 100	99	526 541	503 523	478 503	10! 10 ₄
長	賀崎	(46)	12, 800	Δ	100	99	505	486	463	102
熊	本	(48)	42, 300	Δ	100	100	535	515	497	104
大	分	(49)	24, 600	Δ	400	98	514	493	480	100
宮	崎	(50)	23, 200	\triangle	300	99	497	484	482	100
	早期栽培 普通栽培	(51) (52)	8, 810 14, 400	\triangle	140 200	98 99	476 511	469 494	469 490	100 101
	月 島	(52)	23, 700	\triangle	1, 200	95	480	466	469	99
	7. 期栽培	(54)	6, 560		70	101	450	439	435	10
		(55)	17, 100	Δ	1,400	92	489	474	479	99
沖	縄	(56)	716	\triangle	11	98	311	309	306	10
	第一期稲	(57) (58)	527 189	\triangle	10	98 99	364	362	358 160	101
	第二期稲	. ,	To9						100	

注:1 ①10 a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 (参考)農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10 a 当たり予想収量、③10 a 当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用)の算出には、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量を用いた。

参	考		平年	比較		
主食用作付見込面積	予想収穫量 (主食用) ⑥=①×⑤	穂数の多少	1 穂 当 た り も み 数 の 多 少	全もみ数の多少	登熟の良否	
1, 386, 000	7, 374, 000					(1)
98, 900	488, 600	少 な い	平年並み	 少 な い	平年並み	(1)
39, 600	236, 800	やや少ない	多い	やや多い	やや不良	(3)
48, 800	266, 900	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(4)
64, 500	355, 400	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(5)
75, 000	420, 000	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	(6)
56, 400	334, 500	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(7)
61, 200	343, 900	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(8)
66, 800 54, 700	350, 700 302, 500	やや多い 多 い	平年並み やや少ない	やや多い やや多い	やや不良 平年並み	(9)
13, 700	69, 200	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(10) (11)
30, 800	149, 700	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(12)
53, 900	292, 100	やや多い	やや多い	多い	不良	(13)
133	556	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(14)
3, 080	15, 300	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	(15)
104, 700	563, 300	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(16)
33, 300	184, 100	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(17)
23, 200 23, 600	120, 600 124, 800	平年並み	平年並み	平年並み やや多い	平年並み	(18)
4, 820	26, 300	やや多い 少 な い	平年並みや多い	やや少ない	平年並み や 良	(19) (20)
31, 300	195, 300	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(21)
21, 500	104, 100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(22)
15, 700	81, 300	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(23)
26, 700	135, 600	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(24)
27, 100	135, 200	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(25)
30, 100	154, 100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(26)
13, 900	70, 200	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	(27)
5, 000 35, 500	24, 900 176, 400	平年並み	平年並み 平年並み	平年並み 平年並み	平年並み	(28)
8, 530	43, 800	平年並み 平年並み	平年並み	平年並み	平年並み 平年並み	(29) (30)
6, 430	31, 700	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(31)
12, 700	65, 000	少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(32)
17, 200	89, 300	やや少ない	多い	平年並み	平年並み	(33)
29, 400	155, 200	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(34)
22, 900	120, 500	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	(35)
18, 900	98, 100	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(36)
11, 200	53, 000	やや少ない	元 た 光 7 .	9945	 Ф Ф В	(37) (38)
		平年並み	平年並み 平年並み	やや少ない 平年並み	や や 良 平年並み	(39)
12, 500	61, 800	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(40)
13, 900	70, 300	多い	平年並み	多い	やや不良	(41)
11, 400	50, 400					(42)
•••	•••	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや不良	(43)
	100 000	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや不良	(44)
34, 900	183, 600	多い	平年並み	多い	やや不良	(45)
24, 000 11, 400	129, 800 57, 600	多 い 多 い	やや少ない 平年並み	多 い 多 い	やや不良 やや不良	(46) (47)
32, 300	172, 800	やや多い	やや多い	多 い	やや不良	(48)
20, 600	105, 900	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(49)
14, 700	73, 100					(50)
		やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(51)
		やや少ない	やや多い	やや多い	やや不良	(52)
18, 300	87, 800					(53)
	•••	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(54)
716	2, 230	平年並み	やや少ない 	やや少ない 	平年並み	(55) (56)
710	2, 230	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(57)
						(58)
						. ,

⁴ 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積(平成30年9月15日現在)を除いた面積(見込み)である。 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。 6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 平成30年産水稲の出穂期及び刈取済面積割合(9月15日現在)

					出 穂				期			
都 道		1 府 県	Ĺ		lle.		. tte		lle.	最盛期	の比較	刈取済面積 割 合
				始	期	最盛期		終	期	対平年差	対前年差	
				月	日	月	日	月	日			C
全			国				•••					2
比		海	道	7.	27	8.	2	8.	7	2日遅	2日遅	
青			森	8.	1	8.	5	8.	12	並み	1日早	
岩			手	7.	31	8.	3	8.	9	2 日早	3 日早	
宮			城	7.	28	7.	31	8.	9	2 日早	1 日早	
狄			田	7.	31	8.	3	8.	11	1 日早	3日早	
Ц			形	7.	31	8.	3	8.	11	3 日早	4 日早	
畐			島	7.	31	8.	5	8.	14	4 日早	4 日早	
芡			城	7.	13	7.	26	8.	10	3 日早	1 日早	(
·			木	7.	20	7.	26	8.	16	5 日早	2 日早	2
洋			馬	8.	5	8.	16	8.	30	4 日早	3 日早	
奇			玉	7.	21	8.	7	8.	28	3日早	1日早	3
Ti			葉	7.	10	7.	20	8.	2	3 日早	2 日早	(
東			京	8.	3	8.	9	8.	24	5日早	4 日早	``````````````````````````````````````
		太										-
伸紅			JII	7.	30	8.	9	8.	16	3 日早	2日早]
折			潟	7.	24	8.	3	8.	12	3日早	3日早	6 2
富一			Щ	7.	18	7.	30	8.	9	3日早	3日早	4
石			Ш	7.	16	7.	27	8.	3	2 日早	2 日早	(
畐			井	7.	11	7.	27	8.	9	5 日早	3 日早	
Ц			梨	7.	30	8.	6	8.	29	3 日早	3日早	
툿			野	7.	26	8.	3	8.	12	4 日早	2 日早	
支			阜	7.	19	8.	18	9.	2	2 日早	2 日早	:
浄			岡	7.	18	8.	5	8.	30	3 日早	並み	4
受			知	7.	21	8.	16	9.	4	2 日早	1 日早	;
Ξ			重	7.	12	7.	20	8.	6	3 日早	3 日早	Ć
兹			賀	7.	23	7.	28	8.	14	4 日早	1 日早	
京			都	7.	22	7.	31	8.	14	3 日早	1 日早	(
大			阪	8.	1	8.	22	8.	31	2 日早	1 日早	
Ę			庫	7.	27	8.	8	8.	30	4 日早	1日早	:
奈			良	7.	28	8.	23	8.	29	1日早	並み	
П		歌	山	7.	18	8.	5	8.	23	2 日早	2日早	4
当			取	7.	25	8.	5	8.	20	並み	3日遅	
計			根	7.	17	7.	26	8.	15	5 日早	1 日早	4
到			山	7.	28	8.	18	9.	2	2 日早	並み	:
古			島	7.	21	8.	4	8.	26	4 日早	1 日早	•
Ц			口	7.	27	8.	7	8.	25	3 日早	並 み	4
	白	E #0 #1										
芭	島	早期栽		7.	5	7.	13	7.	24	2日早	並み	10
c.		普通栽		7.	19	7.	30	8.	29	1日早	並み	(
季			JII	7.	19	8.	20	9.	4	1日早	1日遅	4
受			媛	7.	17	8.	12	9.	2	1日早	並み	4
与	知	早期栽		6.	25	7.	1	7.	11	3 日早	並み	10
		普通栽		8.	11	8.	18	8.	26	1 日早	1日遅	
虽			岡	7.	31	8.	21	9.	4	2 日早	並み	
生			賀	7.	19	8.	27	9.	9	1 日早	1日遅	
Ē			崎	7.	15	8.	25	9.	4	2 日早	1日遅	
Ŕ			本	7.	13	8.	20	9.	4	3日早	1 日早	
t			分	7.	29	8.	24	9.	3	2 日早	1日遅	
1	崎	早期栽	培	6.	17	6.	22	6.	29	4 日早	6 日早	1
		普通栽	培	8.	16	8.	24	9.	3	1 日早	並み	
包児	己島	早期栽		6.	9	6.	22	7.	14	5 日早	7日早	10
		普通栽		8.	19	8.	25	9.	5	1日早	1日遅	
	縄	第一期		5.	10	5.	21	6.	5	2日早	4 日早	10

注:出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区: 39,408 単位区

(2) 作柄概況調査

作況標本筆:10,178 筆 作況基準筆:551 筆

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害 状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調查:平成30年7月15日現在

(2) 作柄概況調査:平成30年9月15日現在

6 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行った。なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

7 実績精度

作付面積調査の対地標本実測調査における水稲作付面積に係る調査結果(全 国)の実績精度(標準誤差率の推定値)は、次のとおりである。

区分	標準誤差率(%)
水稲作付面積	0. 35

注:標準誤差率(%)=標準誤差の推定値÷推定値×100

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較し

て多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、 少ないの5段階で表している。

- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数 が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、 やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 ㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から 作成した各収量構成要素(1㎡当たり穂数等)の平年値との比較である。

多少	少ない	やや少ない	平年並み	やや多い	多い
(良否)	(不良)	(やや不良)	十十业》	(やや良)	(良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する 10 a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所 属 都 道 府 県 名	農家等使用目幅
北東北関東近中四九沖	北海道 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島 新潟、富山、石川、福井 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野 岐阜、静岡、愛知、三重 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山 鳥取、島根、岡山、広島、山口 徳島、香川、愛媛、高知 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島 沖縄	1. 85mm 1. 85mm 1. 85mm 1. 80mm 1. 80mm 1. 80mm 1. 80mm 1. 80mm 1. 75mm 1. 75mm 1. 75mm

(8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 その他

(1) この資料のうち作付面積の数値は、概数値である。

確定した詳細な数値は、ホームページに掲載(平成31年2月予定)するとともに、その後刊行する「平成30年耕地及び作付面積統計」に掲載する。なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホ

- ームページでお知らせする。
- (2) 本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

〇 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧 いただけます。

[http://www.maff.go.jp/j/tokei/]

この結果は、分野別分類「作付面積·生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査(水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物)」で御覧いただけます。

[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3]

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ:農林水産省>組織別から探す>政策統括官 http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先 -

- ◎本統計調査結果について
- 作付面積に関すること 農林水産省 大臣官房統計部 生産流通消費統計課 面積統計班

電話: (代表) 03-3502-8111 内線3681

(直通) 03-6744-2045

FAX: 03-5511-8771

・作柄概況に関すること 生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話: (代表) 03-3502-8111 内線3682

(直通) 03-3502-5687

FAX: 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について 農林水産省 大臣官房統計部 統計企画管理官 広報普及班

電話: (代表) 03-3502-8111 内線3589

(直通) 03-6744-2037

FAX: 03-3501-9644



政府統計の総合窓口 (e-Stat) http://www.e-stat.go.jp/



平成30年11月1日現在で、水産業を営んでいる方などを対象に、2018年漁業センサスを実施します。

(流通加工調査については平成31年1月1日現在)

調査票が届きましたら、記入の御協力をお願いいたします。 また、調査票はオンラインによる回答も可能です。